

氏 名：中田 かおり
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 174 号
学位授与年月日：2019 年 3 月 9 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）
副査 森 明子（聖路加国際大学教授）
副査 江藤 宏美（長崎大学教授）
副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）

論 文 題 目：仕事復帰後の母乳育児継続を目的とした出産後の女性に対するプログラムの評価

博士論文審査結果

主として以下の点について修正が求められた。

<文献検討について>

- ・引用した研究結果については具体的数値を記述すること

<研究方法について>

- ・研究の概念枠組み図とサブストラクション図に不整合があるため、整合性のある図に修正すること
- ・プログラム介入時にクラスに参加した助産師の実際の人数が記述されていないので明記すること
- ・日本語版母乳育児継続の自己効力感尺度について、原版と日本語版の関係性に関する記述が不明瞭であるため、修正すること
- ・介入方法の 1 つであるリーフレット介入は、形状からするとパンフレットに該当するため、目的、方法、結果の記述ではパンフレットとすること

<結果について>

- ・アウトカムを「復職 3 ヶ月時点での母乳率」と記述しているが、産後から母乳育児を実施している人が復職 3 ヶ月時点でも母乳育児を継続できていた人の割合であることから「母乳継続割合」とすること。これに合わせて、用語の操作的定義の記述も修正すること
- ・研究対象者である母親の産後の月数(乳児の月齢)の情報、また、比較した 3 群のうちリーフレット介入群と非介入群の調査期間が記述されていないため、これらを明記すること
- ・プログラム介入群と非介入群の比較、及びリーフレット介入群と非介入群の比較を見ると、どちらも非介入群に対して効果が認められ、その効果は同程度という結果となって

いる。このことと、プログラム介入で時間的拘束と人出がかかる等の点からすると、プログラム介入よりもリーフレット介入のほうが費用対効果はよいのではないかとの指摘がなされ、リーフレット介入よりも高い効果が期待されるプログラム介入となるための改善が必要であること

- ・統計学的検定結果の記述が不適切な部分があるため修正すること
- ・統計学的検定結果が間違っている可能性が指摘され、数値の見直しを行い正しい検定結果に修正すること

<考察について>

- ・結果に既に記述している内容が繰り返されている部分があるため、記述を整理すること (p65 に「クラスでは、参加者それぞれが・・・場面が多々見られた。」とあるが、同様の内容が結果の p60 にある。)

<結論について>

- ・結論ではなく結果が記述されているのみであるので、結果から導かれる結論に修正すること

これらの指摘に対し、適切な修正がなされたことが確認された。

学生は、修士課程の時から母乳育児に関連する研究に携わり、論文作成・学会発表の業績を積み上げてきており、それらの結果を踏まえ、さらなる探求のために本研究に取り組み、論文として完成させたことは高く評価される。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与すること に値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。